

重点事項	評価内容	評価の観点		担当	評価(中間評価)	総合評価(中間)	改善策等	
		評価方法	評価基準					
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実現	まとめ、振り返りのある授業を行っている		研究推進チーム	・教師アンケート ア＋イ 75.0% (77.3%) 判定C (C)	B (B)	授業でつけさせたい生徒の力の具体を明確にし、引き続きまとめや振り返りの時間を確実に確保していく。生徒自身の言葉でまとめや振り返りを書くよう改善していく。	
		根拠・理由をもとに考えを書いている			・教師アンケート ア＋イ 81.3% (90.9%) 判定B (A)		B (A)	根拠や理由を黒板にキーワードとして残すなど共通取組を行っていく。
		授業の中で学び合い活動をしている			・生徒アンケート ア＋イ 91.0% (91.7%) 判定A (A)			A (A)
		I C T機器を活用した授業をしている			・教師アンケート ア＋イ 85.0% (90.9%) 判定B (A)		C (C)	
			・生徒アンケート ア＋イ 95.2% (96.3%) 判定A (A)					
			・教師アンケート ア＋イ 75.1% (77.3%) 判定C (C)					
	学習規律の徹底	授業の約束4か条を守っている		学習基盤チーム	・教師アンケート ア＋イ 86.7% (94.3%) 判定B (A)	A (A)	授業態度については「ONの姿勢」など重点項目を決めながら規律ある学習環境の整備に努めていく。	
	英語検定の合格の取組	英語検定合格率 英語検定合格率目標 1年5級80% (71人) 2年4級70% (54人) 3年3級50% (45人)			1年5級以上 70人 (6人) 2年4級以上 35人 (4人) 3年3級以上 14人 (0人) 合格率 45.8% (3.9%)		D	年度当初に、スケジュールを示しての長期的・継続的な指導・取組が必要である。また、家庭での自立的学習ができる教材の開発や紹介を行っていく。
	家庭学習の取組	家庭学習目標時間の達成率 家庭学習目標時間 1年70分 2年80分 3年90分			・教師アンケート ア＋イ 87.5% (86.4%) 判定B (B) ・生徒達成率 全体 平日64.9%(59.3%) 休日54.8%(51.7%) 判定B (C) ・保護者アンケート ア＋イ 36.3% (34.0%) 判定D (D)			C (C)
豊かな心	清掃活動への取組	無言で清掃に取り組んでいる		生徒指導部	・教師アンケート ア＋イ 87.5% (90.9%) 判定B (A)	B (B)	担当者の目が届いてない状況では依然として課題がある。無言清掃の意義をしっかりと伝え、価値付けしながら取り組んでいく。	
	自治的・自発的な生徒会活動	委員会活動や係活動に意欲的に取り組んでいる			・生徒アンケート ア＋イ 91.5% (96.8%) 判定 (A)		A (A)	より主体的な機運を高めるために、前年踏襲するだけでなく、活動したくなるような斬新な取組を生徒から発信できる環境づくりをしていく。
	ヘルメットの着用	ヘルメットを着用している			・教師アンケート ア＋イ 81.3% (90.9%) 判定B (A)			A (A)
信頼される学校	授業・行事の公開と周知	ホームページを見ている		教頭	・保護者アンケート ア＋イ 44.6% (49.0%) 判定D (D)	D (D)	「テトル配信機能の活用」と同時に、ホームページでの発信内容の魅力化をすすめ、さらなる周知に努めていく。	
	挨拶ができる	すすんで挨拶をしている			・教師アンケート ア＋イ 75.0% (81.8%) 判定C (B)		B (B)	挨拶のよさを伝えるとともに、教師自らが模範を示し、生徒の挨拶を評価・価値付けする場面を設けていく。
勤務負担の軽減	教職員の働き方意識に関する改革	1ヶ月の時間外勤務時間が80時間を下回る割合			80時間以上超過 4月 5人 5月 3人 6月 3人 7月 0人 8月 0人 9月 8人 10月 2人 11月 0人 12月 0人 1月 0人 92.4% (89.8%)	A (B)		学校行事と部活動の大会が重なる繁忙期に超過勤務が多くなる課題が依然としてある。部活動の地域展開とともに、外部人材の発掘を進め、積極的に活用していかなければならない。